

## 4-2

### 共通事項

#### 1 行為地の選定

行為地を選定するときは、地域の良好な景観を損なうことのないよう、かつ、主要な視点場から周囲の山並み、湖沼、歴史的建造物等への眺望の妨げにならないよう努めること。

##### 【基準のねらい】

山並みや水辺などの自然や歴史的な町並みは、価値ある景観として保全する必要があります。行為地の選定段階から、地域の優れた景観資源への眺望を妨げるような場所での行為を避けるよう検討することが重要です。

##### 【景観づくりの手法】

###### <中心市街地・周辺市街地>

主要な視点場から景観資源への眺望を確保する

道路など主要な視点場から山並みや湖沼、歴史的建造物などへの見通しを配慮し、行為地を選定する必要があります。

###### <田園集落地域・自然地域>

地域のシンボルとなるような山並み等への眺望線を遮る場所に行為地を選定しない

地域のシンボルとなる山並み等は主として遠くから眺める対象となっているため、山の稜線がつくるスカイラインなどへの配慮が重要です。山頂付近や尾根線など、自然の輪郭線を分断するような位置での行為は避けなければなりません。

###### <視点場、対象場と主対象>

**視点場**：景観を眺める人の位置（視点）が存在する空間。その空間の状態（快適さなど）によって景観の感じ方も変わります。

**主対象**：対象場の中でその景観の性格を決定づけ、他の対象を景観的に支配している対象（群）のこと。

**対象場**：眺められている対象群から視点場と眺望の主対象を除いたすべての対象。



猪苗代湖越しに望む磐梯山



歴史的な建造物は地域のシンボルとして親しまれている。郡山市公会堂<国登録文化財>

##### 【用語解説】

**シンボル**：ある地域を特徴づける象徴的な景観要素。

**稜線**：山の峰から峰へ続く線。尾根。  
**スカイライン**：空を背景に、建築物等の人工物や山並み等の自然物が連続して描く輪郭。



(注) 上の図のように主対象が背景の場合は、対象場は手前となりますが、主対象が手前の物の場合は、対象場が背景となることもあります。

## 2 異なる視点からの検討

設計にあたっては、遠景、中景、近景、近接景等、異なる視点からの検討を行うよう努めること。

### 【基準のねらい】

景観は、視点場からの距離や視点の高さなどの位置関係によって異なります。主要な視点場からの見え方を確認するなど、異なった視点から景観を検討する必要があります。

### 【景観づくりの手法】

#### □視点場からの距離に配慮する

視点場と視対象の距離の違いにより景観の見え方にはそれぞれ特徴があり、この特徴に応じたデザイン上の配慮が求められます。例えば遠くから眺望される場合には、大規模な建築物等の規模や形態など全体の骨格となるデザインが周辺の景観にどのような影響を与えるのかを考える必要があります。また、近くから眺望される場合には、素材感等の細かなデザインに配慮することが重要となってきます。

#### <中心市街地・周辺市街地>

#### □近接景、近景、中景に配慮

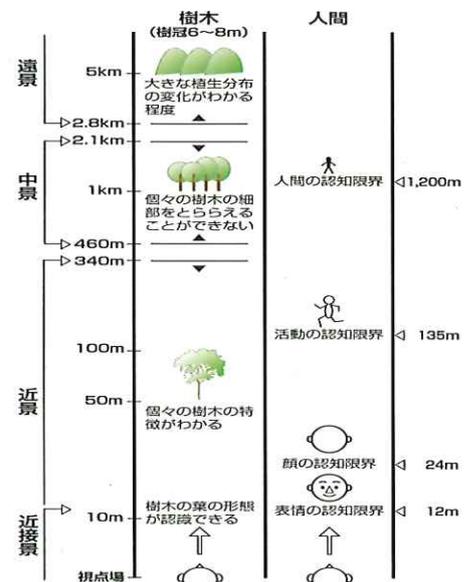
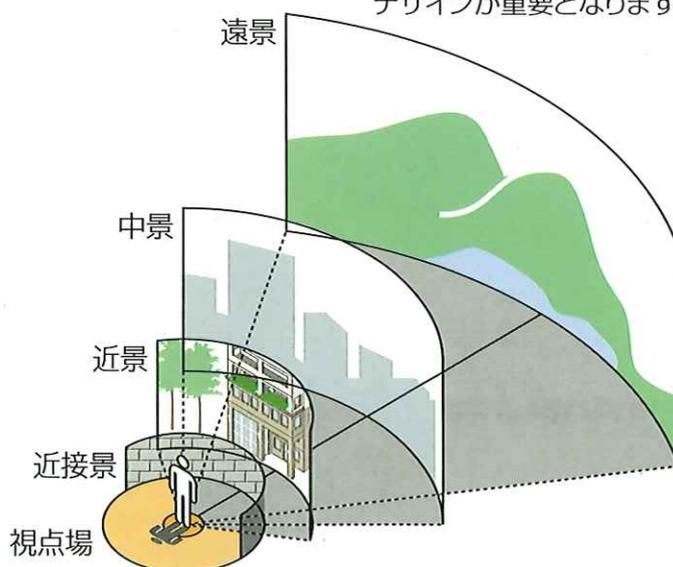
中心市街地、周辺市街地では建築物等が密集しているため、比較的近くから眺望される場合が多くなります。このため、建築物の低層部など歩道を歩く人の視線に近いところのデザインが重要となります。

#### <田園集落地域・自然地域>

#### □中景、遠景に配慮

広がりのある田園集落地域や自然地域では、遠景から眺望されることが多いと想定されるため、建築物等の規模や形態など全体の骨格となるデザインが重要となります。

#### <視点からの距離>



### 3 施設間の調和

行為地内に複数の建築物、工作物、広告物、屋外駐車場等を設ける場合には、施設間の調和に配慮すること。

#### 【基準のねらい】

大規模行為では、行為地内における施設間の調和にも配慮することが重要です。行為地内における複数の施設間の調和に配慮しながら設計を行うことにより、まとまりの感じられる景観づくりを行うことができます。

#### 【景観づくりの手法】

##### □形態や意匠を揃える

形態や意匠を揃えていくことにより、全体として統一感の感じられる景観づくりが行えます。

##### □色彩による調和を使い分ける

色彩の調和には、類似による調和と対比による調和という2つの考え方があります。類似による調和は穏やかな印象を与え、また、コントラストといわれる対比による調和は緊張感を与えます。このため、周囲の状況等によって使い分ける必要があります。

##### □緑など共通する要素によって統一感を出す

共通する要素を加えて統一感を出すことにより調和を図ることもできます。特に、樹木等の緑を使うと効果的です。緑は、さまざまな形態や意匠を緩衝する働きをします。

##### □設計者が異なる場合には、調整を行う

隣接する建築物等を複数の設計者が設計する場合は、全体調整を行う統括設計者を置いて、個々の設計を指導すること（マスターアーキテクト方式）も有効な手段です。



形態や色彩、意匠、素材が揃った歴史的な町並み（下郷町）



形を揃えて色で変化をつけている。（デンマーク、コペンハーゲン）



マスターアーキテクト方式により調和を図った住宅地（東京都八王子市）

#### 【用語解説】

コントラスト：2つ以上の対象物（背景も含む）の規模、形態、色彩等の差異によって生じる対比の強弱。



形態や色彩を揃えて調和を図っている新しい町並み(郡山市)

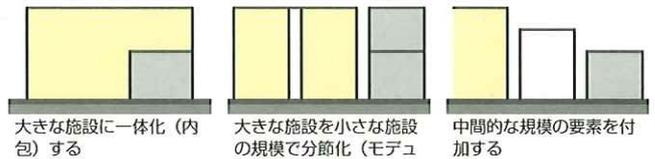


樹木によって印象を和らげている建築物(宮城県仙台市)

<複数の施設を調和させる手法の例>

規模による調和

配置の組み合わせや規模の調節による調和が有効です。



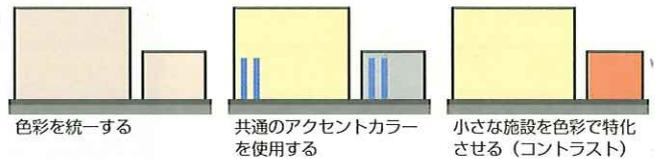
大きな施設に一体化(内包)する

大きな施設を小さな施設の規模で分節化(モジュール化)

中間的な規模の要素を付加する

色彩の変更による調和

規模の変更が難しい施設の場合には色彩による調和が有効です。



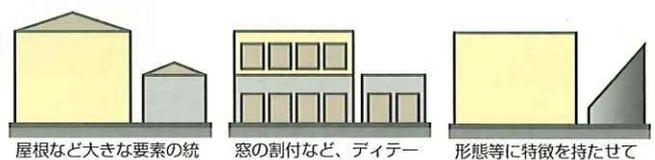
色彩を統一する

共通のアクセントカラーを使用する

小さな施設を色彩で特化させる(コントラスト)

形態・意匠による調和

部分的なデザインの工夫で調和を図ることもできます。



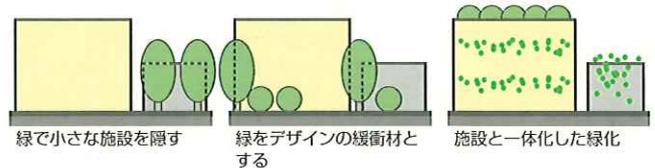
屋根など大きな要素の統一を図る

窓の割付など、ディテールの共通化

形態等に特徴を持たせて対比的な調和を図る

緑化による調和

緑は緩衝材としての働きをします。



緑で小さな施設を隠す

緑をデザインの緩衝材とする

施設と一体化した緑化する

行為地内の施設の調和

行為地内に設置される様々な施設の素材や色彩を共通化することで調和を図っています。(フォレストパークあだたら)



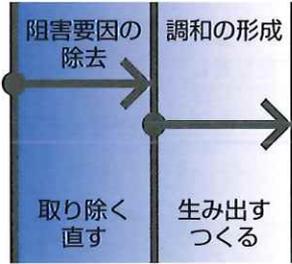
#### 4 景観阻害要素の修景及び過剰なデザインの抑制

行為地内において景観を損ねている要素の修景に努めるとともに、周辺の景観を損なうこととなる必要以上のデザインを行わないこと。

##### 【基準のねらい】

行為地内において、景観上好ましくない要素を取り除くなどの修景を行うことにより、景観を向上させます。また、必要以上のデザインは周囲の景観から浮き立ってしまい、全体の景観を損ねることになるため避ける必要があります。

景観づくりのレベル



改善すべき景観

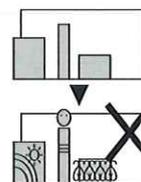
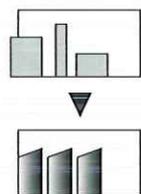
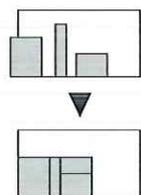
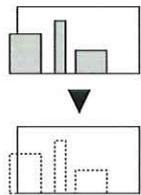
よりよい景観



雑然とした町並みの看板や電柱などを取り除くことですっきりとした景観をつくることができます。(シミュレーション例)

##### 【景観づくりの手法】

###### 修景の手法



###### 景観づくりのポイント

###### <除く/隠す>

unnecessary elements to be removed or hidden, such as unnecessary signs or utility poles, and use greenery or other facilities to hide them. This creates a clean and clear landscape where the main elements are clearly defined.

###### <整理する>

Organizing elements to create a sense of order is also important. At this time, benches or signs, etc., are combined with other elements, and the richness of the space can be increased.

###### <見せる>

After organizing elements, adding new elements to create a focal point in the landscape and further enhancing the quality of the landscape.

Avoiding excessive design that is not based on function or scale. Excessive decorative design in the surrounding area becomes a stand-out element, and the overall landscape loses its coherence, so it should be avoided.

###### 修景例

- ・外から直接見えない位置に設置する。(電線の地中化、地下駐車場の設置)
- ・設備等のシステム自体を見直し、 unnecessary elements to be removed.
- ・植栽で隠す。
- ・二次的なファサード(建築物と一体的な塀、さく、門等)で隠す。

- ・規則的な配置とする。
- ・数を減らす、サイズを小さくする。
- ・複合化(照明+車止め、サイン+配電箱等)を図る。
- ・色彩を同化(建築物の色彩と同色系)させる。

- ・アクセントカラーを使用する。
- ・彫刻的な形態とする。

- ・地域の物産や動植物の直接的な表現を避ける。
- ・機能と無関係な安易な形態の模倣を避ける。
- ・周辺の景観から浮き立つ派手な色彩や素材の使用を避ける。



必要以上のデザインは避ける。

## 5 視点場の確保

行為地内には、できる限り地域の良好な景観が眺望できる快適な空間を視点場として整備するよう努めること。



景観を楽しむためにつくられた視  
き窓(福岡県前原市)



借景を生かした庭園(京都府京都市)



背景の丘陵地の緑を生かした施設(広島県広島市)



川面の景観を楽しむことができる  
快適な視点場(佐賀県柳川市)

## 【基準のねらい】

行為地内から優れた景観を眺望することが可能な場合には、大規模行為による景観づくりを考えるだけでなく、行為地からそれらの景観への眺望を生かした視点場を整備することが重要です。このようにすることにより、優れた景観をみんなで共有することができます。

## 【景観づくりの手法】

## □主対象との距離や視角に考慮する

視点場を整備する際には、眺めるモノ(主対象)との距離や視角(眺める角度)に注意する必要があります。

## □主対象を額縁に入れるように切り取って見せる

優れた景観をより強調するためには、視界を限定したり、場面を切り取って見せる手法も応用できます。

## □行為地内の景観との連続性に配慮する(借景)

庭園や山並みとの連続性に配慮するなど、行為地内の景観と主対象との連続性に配慮することが重要です。

## □視点場を快適な空間とする

ベンチや四阿を設置するなど、視点場を周囲の景観に調和した居心地のよい快適な空間として整備することが重要です。

## &lt;中心市街地・周辺市街地&gt;

## □視点場を見つけ、積極的に整備する

市街地では、良好な視点場となる場所は限定されるため、積極的に整備する必要があります。

## &lt;田園集落地域・自然地域&gt;

## □美しい自然景観を生かした視点場を整備する

田園集落地域、自然地域には豊かな水と緑の景観資源が多くあります。これらへの眺望を生かした視点場を整備する必要があります。

## 【用語解説】

四阿：小憩を兼ねて眺望や談話、時には飲食などを楽しむための小建築物。

## 6 時間の経過

設計にあたっては、四季の移り変わり、終日の光の変化、夜景等を考慮するよう努めること。

### 【基準のねらい】

景観は、時間の経過とともに変化します。四季の移り変わりによる変化や昼間と夜間における光の変化を意識することにより、魅力的な景観をつくることができます。

### 【景観づくりの手法】

#### □四季による樹木の変化を活用する

落葉樹は、新緑や紅葉、落葉など四季によってその見え方が異なります。落葉樹を用いることにより、四季の移り変わりにより生じる変化のある景観を楽しむことができます。

#### □雪景色を活用する

積雪は、冬季の景観を印象づける重要な要素です。美しい雪景色が周囲にある場合には、視点場を整備するなどの工夫が必要です。

#### □日中の日差しをコントロールする

日中の光の変化は、光と影が情緒豊かな景観をつくるため重要な要素となります。日溜まりや木陰などの快適な場所を視点場づくりに積極的に生かす工夫が必要です。

#### □光の色や方向に配慮する

朝やけや夕やけ、たそがれなど終日の変化の中で光の色や方向はさまざまに変化します。それぞれの光の色や方向などに調和した景観づくりを行うことにより、情緒豊かな景観をつくることができます。

#### □夜間の照明を工夫する

夜間は、照明により昼間とは全く別の景観をつくることができます。照明によって見せたいものを印象的に際立たせることで、昼間とは違う景観をつくることができます。

### <中心市街地・周辺市街地>

#### □歳時記の景観づくりを行う

商業地などでは、クリスマスや七夕などの歳時記の夜景の演出を積極的に取り入れた景観づくりを行うことにより、まちの賑わいをつくります。

#### □景観資源をライトアップする

景観資源が地域のランドマークとなっている場合には、ライトアップによる光の演出により景観資源を際立たせ、夜間の景観づくりの核とすることができます。

### <田園集落地域・自然地域>

#### □自然景観の四季変化との調和

自然は、季節によって深緑や紅葉、白銀などダイナミックな色彩の変化を見せます。大規模行為を行う際には、このような四季の移り変わりによる自然景観の変化との調和に配慮します。



春を告げる桜並木（開成山公園）



美しい冬景色（只見町）



イルミネーションによる夜景（開成山）



日溜まりは日差しによる心地よい屋外空間をつくる。（東京都江東区）

#### 【用語解説】

ライトアップ：夜間において、対象物を照明施設によって照らし出すこと。

ランドマーク：地域の象徴となる景観要素。由緒ある建造物や塔、坂、山など。

## 7 愛着のある景観の保全

行為地の周辺に地域の住民に親しまれている景観がある場合は、その景観を保全するよう努めるとともに、積極的に景観づくりに生かすこと。

## 【基準のねらい】

親しまれている景観を保全することによって地域の景観が向上し、地域への誇りや愛着を持つことができます。これらの景観を地域の景観づくりの核として活用することにより、地域住民に親しまれ、誇りや愛着の感じられる良好な景観をつくり出すことができます。

## 【景観づくりの手法】

## □ 親しまれている景観を保全する

歴史的建造物や樹木、ため池など地域の中で長く親まれてきた景観は、私たちの心象風景となっているかけがえのない資源です。行為地やその周辺にこのような景観が存在する場合には、保全する必要があります。

## □ 親しまれている景観への眺望を確保する

行為地の周辺に愛着の感じられる景観がある場合には、主要な視点場からの眺望に配慮するとともに、行為地やその周辺に視点場を整備します。

## □ 親しまれている景観に配慮してデザインする

愛着のある景観の対象が蔵などの建造物の場合は、形態、意匠、色彩、素材等に配慮し、また樹木であれば、同種の樹木を植えることによって、これらと調和した景観をつくり出すことができます。



市街地に残っている蔵



奥州街道の松並木



八丁目のヤエツバキ(日和田町)



上石の不動桜(中田町)